〔大正[illegible]第三種郵便物認可〕　昭和八年十二月十六日　磐城新聞　〔土曜日〕　第三千九百四十四號　〔一〕

夕刊
十二月十五日發行
定價 一ヶ月金五拾五錢 一部金五錢（郵稅[illegible]）
廣告料金 普通[illegible]一行金六拾錢 特別[illegible]一行金九拾錢
編輯印刷兼發行人 [illegible]
發行所 磐城新聞社 平町[illegible]
電話三六四番
〔日曜祭日翌日休刊〕

保險界の最尖端を往く

近き將來に全國民の被保險者に

簡易保險局書記　西丸富夫

我國の簡易保險事業は既に一般に知られてゐる通り實施後益々健全な發達を遂げ、今や其の成績は其の件數に於て千九百四十三萬四千七百九十四件、保險金額に於て二十五億七千四百十二萬三千四百六十五圓十錢といふ盛況である。今之をこの計數に基き全國を通じて普及狀況を觀る時は件數に於て一世帶に付き凡そ一件半に當り、又保險金額に於ては二百圓に達してゐる

而して之を積立金に徴すれば大正十四年に一億三千九百四十三萬餘圓のものが現在では其の總額七億六千萬圓の巨額に上つてゐる。この數字は本年十月末日に於ける調査を基礎とするものであるが、其の後の分を算入する時は恐らくいづれも著大な累進率を示して居る事と思ふ。想ふに無自覺より自覺へ、空想より現實への簡易保險が短時日の間に社會生活と愈々密接なる關係を持つ樣になり契約高に於て將又保險金額に於て世界に比類なき發達を遂げ今日二十五億圓を超ゆる準備財産を作り上げ得た事は保險の民衆化、社會化が遺憾なく行はれ國民保險として理想の域に近づきつゝある一證左であり、國家の爲洵に慶賀に堪へない

然し國民全體の加入を理想とする該事業に於ては、固より今日の成績を以て滿足すべきものではないが、私は玆に於て此の簡易保險と云ふ大きな團體を通じて調和と協力が親はれ國民の自覺と理智の進歩とを認めることが出來ると思ふ

殊に最近この簡易保險の發展の上に力強いものとして、特筆大書すべき事は婦人の加入割合が非常に多いと云ふ事であり、現在四割强は婦人の加入者である。これは簡易保險にのみ表はれたる一つの特異の現象と云ふべきであつて婦人が眞に保險制度を理解し、此の簡易保險に着眼するに至つた事は、明に精神的に又經濟的に全國民が自覺し、緊張し、健全なる生活の基礎を作り上げるものであり誠に喜ぶべき現象と云はねばならぬ

而して今日に於ては保險に關する正確なる智識、之れに對する充分なる理解がなければ一家の家計も、社會政策の樹立も、最早不可能とさへ云はるゝやうになつて來てゐるのである

現時政府はこの點に着眼し、率先して廣く國民の自覺を促し、勤儉節約の督勵に奮心せられてゐる事は何人も認諾する所であるが、かゝる努力の結果として今日の如く生活上困難なる國情にあつて上述の如く尙益々業績を擧げるに至つたのであるが斯くの如き現象は何を意味するか、之れは簡易保險の理想、即ち加入資格年齢者全部が此の制度に加はつて一大保險團體を形造り、所謂國民保健の實を擧ぐべき前提であると謂ふ事を物語るものであると思ふ（未完）

磐新歌壇

小山田滋選

稻谷南

○鹽谷崎嚴の白き燈臺にしづかに午後の陽のさして居り

○東京へ稼ぎに行くと言ふ友と語りつつ歩む桑畑の道

○母あらねばうら淋しげに見ゆる子に復習强ひつゝ夜をふかしにけり

○入營の間近くなりし我が兄と今日かぎりなる碁を打ちて居り

潮聲硯靜抄帳

十一月集

渡邊武門

日向ぼこ眼とさして居りにけり

影しかと土塀におとし日向ぼこ

城山にかゝりて居りぬ冬の虹

焚火　三章　赤羽松堂

かりくらや芒平の焚火跡

夕焚火舟待つ濱の女房かな

まのあたり時雨空なる庭焚火

逸名子

入繼ひて孕猫なく夜寒かな

霜の華障子に影す小春かな

どどろ〳〵夕潮高き冬の海

○

かけてすぐほのぼのぬくし耳袋　栢郎

ふる雪にいつとはなしに日が暮れて、安心したよな街の靜寂　加藤齡明

社會の今日

12月16日

△佛國公使幕府にピストルを獻ず（慶應元）△米下院二年間移民入國禁止を可決す（昭和五）△露國東支南線を滿鐵へ賣却提議說傳はる（同六）△滿鐵の硫安工場建設計劃十八萬噸案認可さる△東京白木屋吳服店より出火殆んど全燒死者十三名を出す（同七）

新門と女房

（一）

柳町陽二

慶應改まつて明治元年の五月、しかも彰義隊の面々上野の山に屯して不穩の形勢日に日に高まる頃――

こゝは淺草の馬道通り、男一匹を膽玉一つで賣り出した新門辰五郎の住居。その釣提灯の淡い灯影をくゞつた一人の武家姿があつたが――間もなく、入る時の緊張した面持ちとは打つて變り、魂を引つこ拔かれた亡者の樣にションボリと打沈んで歸り行く姿が見受けられた

彼の侍こそは、當時御親藩水戸に在つてひたすら謹愼の意を表してゐた先の將軍家が、御手元金不足の爲め不如意の生計を遊ばされてゐると聞き、私かに重臣評議の結果、御手元金として五萬兩の大金を江戸より水戸まで官軍の警戒の眼かすめて輸送する事になり、この大役を辰五郎に果さすべき幕府の使者であつたのだ

然し――幕府の最も信頼した唯一無二の適任者新門の辰五郎は、其の時病床に着き枕も上らぬ程の病人であつた。で、流石の使者も眼のあたりこの有樣を見ては到底起つて大役を果し通せる身体ではないと悟り落膽して歸つたのであつた。辰五郎が病氣で起てない限り他に爲すべき術もなく唯不如意の將軍家を傍觀するより外なかつた

この仕事は折も折で、若し官軍の手に捕へられる時は軍用金を運び出すものと誤解されるか、でなくとも將軍家不謹愼のそしりはまぬがれず引いては今後の處分に際して不利をもたらす結果となる憂があつた。だから幕臣が宰領して運ぶことは何れから言つても斷然避けねばならなかつた。で町民に適任者を求める時第一に新門の俠氣と膽力とに信賴する事は一橋時代からの將軍家と辰五郎の關係から言つても當然すぎる程當然な意見である、と同時に辰五郎から言つても二つ返事で引受ける事が永年恩顧を蒙つた將軍家に對するせめて萬分の一の御奉公になるのであつたが事實は辰五郎の病氣の爲めに、幕府の思はぬ蹉跌を來さすと共に辰五郎自身も今までうたはれた男を下げなければならない樣な羽目に落ち入らねばならなかつた

◇―〰―◇

講談

幕末神風組

(78)

土生太郎作
高根秀浩畫

染香の行方（五）

中村がハッと氣づいた時には佐吉の姿は見世物小屋の前から消えてゐた

（あれほど、氣をつけて見てゐたのに、何時の間に行つてしまつたのであらう…？）

と中村が、不審がるほどそれは眼ばたきする僅かの間であつた。中村が氣がついた時には、佐吉の姿は何處かへ掻き消すやうになくなつてゐたのだ。あわてゝ其の邊を驅けめぐつて見たが遂に見當らない

（まるで甲賀者みたいだ）

中村は物足りない氣持ちで、然し思ひ切つて境內を離れ切ることもならず尙もあちこちぶら〳〵してゐた

（ひよつとしたら、常陸屋にぶつかるかも知れぬ）

といふ、淡い望みを抱いて――だが、どんなに境內を探し廻つても[illegible]佐吉の姿に逢ふことは出來なかつた

（もう、歸つたのかな？）

そんな風な考へも浮んで來たがまだ境內に心ひかれてぐず〳〵あちこちを廻つてゐた

（うむ、若しかしたら小屋の內部へ入つたのではあるまいか）

さうだ。どうして今まで其處に氣がつかなかつたのかと、自分の愚かさを叱り乍ら、急いで先刻の小屋の前まで取つてかへすと木戶錢を拂ふのももどかしげに小屋の內部へ

中村は見世物を見るのではない。ぐる〳〵つと一渡り見物人の顔を見廻したが其處には似通つた顔さへも見當らぬ

（さては、今の間に行き違ひにでもなつたのか）

そして中村は再び表へ

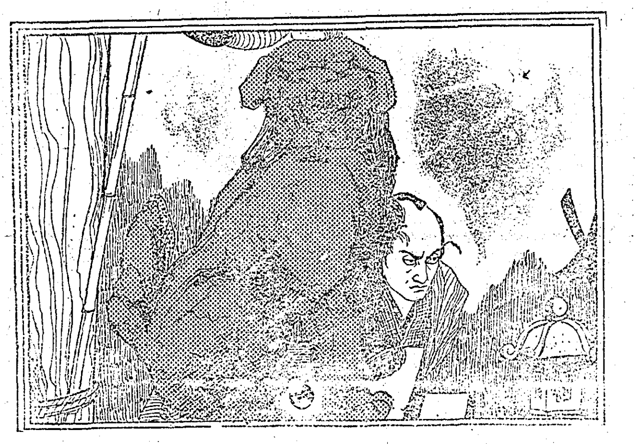
（こんなに分らぬ筈はないが一体どうしたと云ふんだらう）

焦れ切つた氣持ちで中村は神前を横切ると再び緣日の店の前をぶら〳〵

（もう、歸つたのかも知れない）

（いや、まだ何處かにゐるに違ひない――）

彼の心は二つに分れてそれが頭の中で入亂れてゐた



歸らうか歸るまいか、なか〳〵思案はきまらない

と彼の周圍が俄かに騒がしくなつた

『やあ、喧嘩だ！』

『逃げろ！浪人組だぞッ』

『あばれざむれへだ、けがのねえうちに寄つておくんなさい』

だん〳〵と騷々しくなる人々が右往左往してゐる

（何事ッ――？）

中村は思はず逃げまどふ人々の間を驅け拔けて騷ぎの中心へと急ぐ

が、それは中村の勘違ひで、騷ぎは彼の足の向く方とは反對の、御手洗場の横手に起つてゐた

それに氣がついて引き返して來た時には、もう氣丈な江戶ッ子達がぐるッと遠卷きに取りまいてゐた

『可哀さうに、なぶり殺しに殺されてしまふ』

『誰か助けてやるものはねえもんかな』

『ほんとによ、第一、あの高慢ちきな侍の面が氣に食はねえ』

とかなんとか、町人達の口から色々な事が取沙汰されてゐる

『何事か、退けッ！』

中村の一聲に『やあお侍だ』といふのですつと道が開けられる。が、一目見た中村

『御木本だッ！』

と叫ぶなり、パッと飛び退くと一目散に驅け出した呆氣にとられてゐる見物人を埃にして――

と、其時まで燈籠の蔭から騷ぎの樣子をぢつと窺つてゐた佐吉の顔が異樣に緊張を帶びて來た

美味で評判の
イワキサロン
平町電三三五二

刀劍研磨
白鞘調製
刀劍柄卷
刀劍買入
研師 翠光齋
主 船生四郎
平町十五丁目二六大町通り

磐城名物
靈峰羊羹
小川鄕驛前
平屋賣店

短期公開 十四日ヨリ『四日間』毎日晝夜二回開演
キング・コング
全發聲 オールトーキー
二十世紀最大の驚異特作映畫
邦畫洋畫 平館

腕。提。掛。置時計
眼鏡新型
指輪
ビクター コロムビヤ 特約店
正月新譜入荷
金光堂時計店
電一九五

ひろい沙漠を
はるばると
駱駝に乘つて
キャラバンは
雪を踏みふみ
通つてくる
キングレコードが皆樣に贈る
拾貳月新譜中傑作流行唄
會田時計店
四丁目電三六三

眼科專門
賀澤眼科
平町南町 電話七二番
診療時間 毎日 自午前八時 午後九時迄

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

生徒募集
奥樣方の爲め特に隨意科が設られてあります。
毎日定期に通學の出來ない方々の爲の回數券制度……
磐城女子洋裁專門學院
入學毎月初日
（此の際入學者は隨時入學を許可す）
ミシン無料貸與（材料[illegible]）
平町白銀町十七番地
（詳細ハ學則郵券二錢）

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します
親切 丁寧…… 料金は極めて低廉です
妊産婦の御家庭 お留守居番
御病人の付添 年寄やお子さんの付添
炊事や雜用
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二（電話［呼］六五二）
上原家政婦會
會主 產婆 上原通子

夜 診療
胃腸 性病
內科 胃腸病科
花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

吸入用酸素 純度99%
度量衡
モノサシ マス ハカリ
體温器 寒暖計
關內藥局
電話四〇番

眼科專門
吉田眼科病院
院長 醫學士 吉田安 吉田久[illegible]
平町紺屋町 電六八

非常時新女性八百名

けふ聯合青年團第三方部會で

八項の實行要目を強調

郡下聯合女子青年團第三方部總集會は今十五日午前十時から平館で開かれた、參集會員約八百名來賓五十名十時半長谷川飯野副團長の開辭に次いで宮城並に伊勢大神宮遙拜、國歌合唱後津田團長詔書及令旨を奉讀し終つて團長訓辭を兼ねた挨拶來賓篠山第一校長の祝辭あり左記實行要目の説明團員演説豐間女青團員鈴木アキ君の『時代に醒よ』赤井第一女青年團員平澤トチ君の『更生の生活』及『國の近況報告』について講師縣社會教育主事補岩崎周之助氏の一時間半に亘る『非常時に於ける女子の使命』と題する講演あり零時半休憩四十分より映畫『小市民』『キング・コング』等あり三時盛會裡に閉會した

一、諸集會には必ず國歌合唱、宮城、伊勢神宮遙拜

一、大祭祝日に國旗掲揚

一、毎朝神佛を清淨し禮拜

一、諸集會に綿服着用

一、時間を嚴守して能率增進

一、日常生活費の節約

一、水道、電氣の浪費に特に注意

一、貯金の實行

拜賀式御遠慮

平町では來年の新年拜賀式及び名刺交換會を御遠慮申上げる事になつたと

講話義太夫等に赤穗義士を懷ふ

昨十四日湯本有志の催し

剛健氣質涵養のため設けられた湯本靑訓所公民學校八十餘名よりなる湯本義士會では昨十四日の赤穗浪士討入記念日に際し午後八時より同校新校舍に於て講話、義太夫會を催し十時からは金比維神社同義士名札取り競走を行ひ、昨夜は同校舍に假宿し今十五日午前五時から泉岳寺遙拜式を擧行解散した

郡町村長會

石城郡町村長會は今十五日午前九時より第三校講堂で開催、町村財政調整交附金問題其他を協議した

適齡者の所在不明

全郡下に五十名

平、内郷の各六名が筆頭

本年度の徴兵檢査に於ける所在不明のため終決處分未濟の者は郡下五十名で各町村別左の通り

平、内郷各六、湯本、小名濱各五、江名四、四倉三神谷、飯野、田人、川部、勿來各二、渡邊、山田、錦、上遠野、豐間、鹿島玉川、好間、永戸、三坂大浦各一

で平町六名は左の通り

新川町二四永井謙吉、北目一五六鈴木秀雄、田町五五白土數、鍛治町一三石森金治、五丁目一二佐々木二郎、長橋二九吉田小一

窃盗が依然首位

平署の既往三年犯罪統計

平署に於ける既往三年間の犯罪統計左の如く窃盗が依然最多詐欺は漸減を示して居るも總計に於ては二位で賭博、恐喝に至つても非常な減少である

	五	六	七	計
殺人	一	一	四	六
同未遂	一	二	三	六
傷害	五九	四三	六五	一六七
業過失傷	三	三七	二五	九一
窃盗	七八七	七四八	八七六	二四一一
強盗	六	八	三	一七
詐欺	五三二	三七三	二〇四	一一〇九
恐喝	二〇	八	三	三一
横領	八三	六七	五六	二〇六
業横	五九	六一	二四	一四四
其他	一四三	一〇四	一一	二五八
放火		一五	八	二三
失火	一八	一七	一四	四九
住侵	三	九	八	二〇
文僞	三四	四三	一五	九二
賭博	八一	三七	一〇	一二八

犯罪豫防を語る

各方面を網羅して

平署の座談會

今十五日から二十一日迄の犯罪豫防週間に際し平署でも一般民衆に對する注意喚起の爲今十五日より三日間は町内接客業者を會議室に集め講話をなし十八日は午前九時から縣渡警察部長を初め裁判所、辯護士、商工會、醫師會、其他各種團體を網羅した大座談會を開催するが出席は約七十餘名に上る見込みであると

小川江筋組合起債

一萬七千七百餘圓

小川江筋水利組合では來る二十日頃臨時總會を開き着工の日取りを決定するが負擔金關係で着工に先き立ち一萬七千七百餘圓の起債をする事になつた

通話區域擴張

平局では明十六日より左の如く長距離通話の區域を擴張すると（一圓廿五錢）秋田縣能代（一圓）大平、和田、新屋、土崎、追分、飯田川、五城目、一日市、（九五錢）大曲

九九要らず速算競技會

四倉雞鳴會の試み

文部省で採用の本縣會津旭田村星伊策氏發案にかゝる九々いらず算法講習會は去月廿日より四倉雞鳴會が主催となり同町補習學校で行ひ來る廿三日第一回珠算競技會を催す事になつた、尚好間でも今十五日より同村小學校に於て毎週金曜日三ヶ月間開く事になつたが講師は平町吉田松雄氏である

。。。。第二球算競技。。。。　第二校の珠算競技會は來る二十一日玉手、佐藤、松本各訓導指導の下に行はれるが出場は尋五生以上全部種目は讀上げ、見取暗算である

平町工事入札

平町役場では明十六日午前十時から第一、二、平商三校へ奉安庫設置及び之に伴ふ第二校の校庭擴張校門移轉工事の入札を行ふ

保健に無關心な恥かしい平町民

虎眼檢診に心細い現象

平町では此程一週間に亘り町内のトラホーム檢診を行つたが受檢者六千三百四十九名中治療割引券交附したもの八百十五名である因に受檢者は平町總人口二萬七千六百六十名の僅か二割二分强で町民が衞生觀念の欠如を遺憾なく暴露して居る

。。。。山口技師來郡。。。。　縣土木課山口技師は十六、七日さきに完成した豐間漁港海水堰止め及浚渫の狀況を視察すると

役場は六割

吏員の賞與內定

平町役場のボーナスは町長の分が過般の町會で五百圓に決定した外大体六割でこの總額千二百十圓來る廿八日頃一齊に支給する

給食者減少

平町關係六名

平町では各小學校及び磐城訓盲院に就いて給食兒童の調査をしたが第二、第三校は皆無第一校訓盲院各三名計六名で各救濟事業その他の關係で昨年に比して約三割減である

塚越材木商阿久津信平氏所有自轉車一輛價格二十五圓を窃取六日同町佐川庄八郎に七圓で賣却した外木炭、自轉車等四件の窃盗を働いた事件の公判は昨十四日平區に於て中島判事係り三堀檢事關與開廷され懲役一年を求刑された判決言渡しは來る十八日である、又當時住所不定無職新潟市生れ高橋平助（三）は昨十四日夜湯本町三函佐藤某宅から自轉車一臺を窃取平署に檢擧

。疫痢。　平町舊城跡一一大塚辰夫（六）は昨十四日疫痢と決定目下重態なので近く隔離すると

。密獵。　上小川村大字上小川牛乳搾取業高橋供（三）は去月二日無免許クリヌキ空氣銃で雀三羽、夜タカ一羽同村下小川製板職工蛭田清壽（三五）は十二月一日同じく雀四羽を捕獲十四日平署に檢擧された

。。。。鎌田のボヤ騷ぎ。。。。　昨十四日午後七時頃平町鎌田町金成醫院風呂場煙突破損個所から漏火天井に延燒した處を消防隊が馳せつけ消火に努めたので大事に至らず鎭火したが一時は半鐘を鳴らすやら自動車ポンプ神谷方面の消火器が來るやら混雜を呈した

筆劍合同宴

昨夜谷口の盛況

裁判所、檢事局、警察署、三大炭鑛主腦、日刊記者其他の恒例筆劍合同懇親忘年會は昨十四日午後六時より谷口樓に於て開催したが出席七十三名非常な盛會であ

明瀨氏慶事

明後十七日結婚式

東京赤坂に轉住の辯護士明瀨英之助氏は今回吉田宗雄千葉彦治兩氏夫妻の媒酌により東京大橋保一郎氏妹三代能嬢と婚約整ひ來る十七日午後五時から目黑雅叙園で披露式をあげると

筆末は迫り行く

暮に職無き六十八名

平職紹最近の調査統計

平職業紹所の調査に係る十四日現在の町内失業者は給料生活者男十名、女二名、日雇勞働者男四十四名、女十名、その他男二女二計六十八名であつたと

日掛集金八百圓を横領

吉田屋に迷惑かけた

氏家東京で捕はる

平町二丁目氏家勇（二八）は去る六年二月來同町鍛治町呉服商吉田由三郎方の依頼を受け呉服無盡日掛け集金中白銀町野村きんさん外五十名から集金した八百圓を横領カフェーその他で遊興し去る九月中行方を晦ましたが東京目黑區內に潜伏中を其筋に捕はれ昨十四日平署に身柄を引渡され川島司法主任係りで取調べ今十五日送檢された

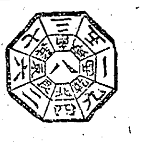
。。。。第三研究教授。。。。　第三校では今十五日尋三ノ二の研究教授及批評を行つた

。。鼠賊。。　双葉郡浪江町大字權現堂字鳥喰九十土工前科一犯鈴木壽（三〇）が去る五日午後五時三十分頃字廣町志賀醫院方前に置いてあつた字

平町慶弔錄

△出生　南町六四朝吉四男岩本光雄

▲死亡　彌宜町六金成清保（四三）古鍛治町八七磯野熊之介（六九）



舊十二月十九日

土曜　丙辰　友引　定　氏宿

新十二月十六日

諸判定總本部　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神宮館

▲一白の人　他の同情を得る事に努めせい意を盡せば安全▲二黑の人　妄擧を愼しめばとがなく業績自ら揚るべき日▲三碧の人　意に叶はぬとて放任せず苦に耐え事に當れ▲四綠の人　才能を考へ力量を計り徐ろに進めば過無し▲五黄の人　前途に望みを囑して奮闘すべし病厄に注意▲六白の人　現狀に滿足して他を思はず焦らぬがよろし▲七赤の人　幸福は一身に止まらず一家喜びに滿たさる▲八白の人　順序を逐ひて物事を運べば次第に樂を加ふ▲九紫の人　氣運は佳良なれど人の爲散財を見る日

小原美聲氏

教授職免許

平町南町平館側小原流盛花瓶華、池坊生花、遠州流抹茶、寶茶流並茶師匠磯山美聲女史は此程京都三條六角堂池坊家元に參向したのを機として同地に滯在小原流家元執事阿部光山師に就き一日數瓶を重ね熱心研究の結果教授職の免許を得た外池坊生花も又新に作法つき活手前の教を受け益々斯道に精進する事になつた

。。。。中村所長視察。。。。　中村水戸運輸事務所長は昨十四日年末貨物輸送に關する注意並

昭和八年の回顧

（七月の卷）

（一日）今日から全國安全週間、各炭鑛各種催し。磐崎の選擧違反二十一名起訴。出所早々金庫を破り歩いた怪賊湯本生れ荒川文吉（五二）逮捕。赤井村議戰　（二日）對日立陸上十種競技二點の差で磐炭惜敗。大仕掛な銅線專門窃盗團一味七名平署に　（三日）ルンペン鮮人好間を荒して捕る　（四日）會社の倉庫から機械類を盜み不良坑夫好間の鈴木定造（三〇）檢擧。勿來町議戰　（五日）　東伏見宮大妃殿下平驛御通過。磐崎の選擧違反十六名罰金。小名濱疑獄に檢事控訴。各炭鑛首腦者仙臺に婦人少年深夜業禁止を打合せ　（六日）　檢事の控訴に被告も不服中立小名濱疑獄絶れる。愈著熱自動車事故澤山少年虐待の讀賣末藏取調らる。第四校建設委員の敷地買收頓挫（七日）第二校花祭り。小名濱疑獄湯本の長岡氏控訴。平驛に劔劇志願の二少年（八日）石城銀行組合協議會を農工樓上で　（九日）磐三郡教員野球大會　平第一校捷つ。三炭鑛庭球爭覇戰に古河再び勝つ。小名濱で遊泳中の幼女乘鞍に挾まる（十日）磐崎村議吉田直文氏罰金刑を不服で正式裁判を仰ぐ。後藤仙臺鑛山監督局長炭山視察。星製藥債權者チエーン大會　（十一日）發頭を發揮の鐵道技工手平署に。新舞子で靑年慘鼻の爆死　（十二日）內郷の老强盜島新松に懲役八年判決。平靑年團幹事會で各役員決定。淺野會館で吉田大佐の時局講演（十三日）波立鰐ヶ淵附近じ溺死体湯本生れの星野タケ子（一九）。勿來の小作人山林で縊死。鹿島生れの長瀨謙（三二）大阪で捕る（十五日）今明日磐炭勞務課關係百餘名高野の山奧で天幕生活。村長の職印を盜用した飯野村役場の使丁猪狩與之（六三）外一名平署に檢擧　（十六日）郡是製糸平管內六十七組合長會議で購入價格の協定今日の豪雨一石一斗を合地方水田甦る。本社募集の炭鑛小唄當選發表一等に赤井の齋藤彦氏（十七日）平署員の非常召集、小名濱權現堂の賽錢泥を檢擧　（十八日）濱三郡木炭組合幹事會で組合の存續を協議　（十九日）元農林主事補木村安三郎（五三）平支部で懲役四ヶ月三ヶ年猶豫。驛待合に歸る怪童福島の石崎豐正君。東京原宿の慘殺事件妻と番頭兩名に有罪（二十日）物騷な辻强盜人妻を襲ひ錢奪（二十一日）平農倉共販　（二十二日）丑の日各派賑ふ　（二十三日）縣下中等校野球大會、磐中、平商共に快捷。同庭球戰に平商、磐中を決勝戰で敗る　（二十四日）昨日の野球決勝戰磐中、平商准決勝に殘る。元藝妓病弱を悲觀して鐵道往生

來ル十七日十八日　二日間（午前九時ヨリ午後五時マデ）

場所　平町四丁目　マルトモホール

織元直賣

製造元問屋の京呉服市價半額大廉賣

御正札の三割引

メチャ〳〵の大安賣

御素人樣も御商人樣も是非御來場

特別奉仕品

午前九時　晒正一反　二十五錢

午後一時　ネル腰卷　十錢

（各五百反限）

萬一賣切ノ節　御斷り………

製造問屋　京都物産合資會社

七五三御祝用　子供服とオーバー賣出し

お坊ちやま、お孃ちやまの樂しい嬉しいお宮參りに可愛らしいなかやの子供服とオーバーを御撰擇のほどを…………

ふかや洋服店　平　電203

◎日本石油株式會社特約店

ライジングサン石油株式會社特約店

關彰商店平支店　電話六一一番

本店　水戸線下館驛前（電話五五番）

營業種目　輕石油、揮發油、モビール油、重油、マシン油、機械油類、胡麻油、種油、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

支店所在地

茨城縣土浦町（電話六五三・八二四）

常磐線關本驛前（電話平潟五四）

常磐線四倉驛前（電話四八）

◇海上給油及油槽所　久慈濱、大津、平潟

產科　婦人科　花柳病科

午前宅診　午後往診　入院應需

井阪醫院

平町田町（元合津醫院跡）　電話五一九番

歳末も愈々押し迫つて參りまして、非常時日本が更に非常時をつぐるの感を呈してゐます。此の秋に際し弊店こそ微力ながら、お客樣本位として、よく備つた店、買ひよい店、安い店、確實な店をモットーとして聊か擴張を圖りました。尚眼鏡部にも最も衞生的な檢眼室の設備をなし簡單に眼鏡の精品をお上げすることが出來るやうに致しました。

歳末から年始にかけて、之ら各種品の全部景品付で奉仕して皆樣の御滿足に添ふつもりで居りますから是非一度御來店の程を御待ちして居ります……。

十二月十五日

平町二町目　根本時計眼鏡部

內外　建築材　建具材

入　阿部材木店

磐城國平町（公園下）　電話四九四番